

宇美町公共施設再配置計画 概要版

1. 計画の目的

本計画は平成29年3月に策定した宇美町公共施設等総合管理計画で定めた方針を実現するため、個々の施設の今後40年間の方向性を検討し、財政負担の軽減のみならず、地域特性を活かした施設サービスの向上も目指す計画となるよう策定しました。

計画期間

2019年～2058年の40年間

2. 対象施設

本町が保有している箱物系公共施設は95施設です。そのうち、本計画で評価・検討を行う施設は、耐震改修や長寿命化が必要とされる施設や、複合化・統廃合により効率的な運営・維持管理や効果的なコスト削減が期待できる施設の45施設とします。



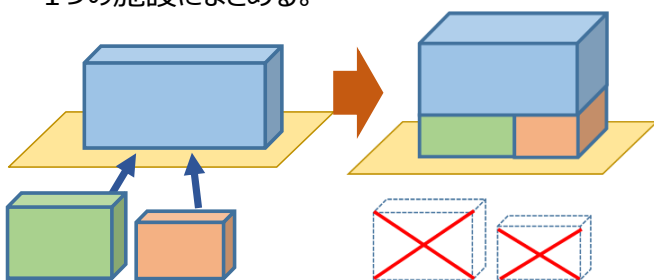
再配置の手法



全ての公共施設を維持すると、施設の更新費だけに町予算の1割約11億円を毎年費やすことになります。こうした支出を続ければ、福祉や教育をはじめとした他の行政サービスに支障が生じてしまうかもしれません。そこで、このような方法を駆使することが考えられます。

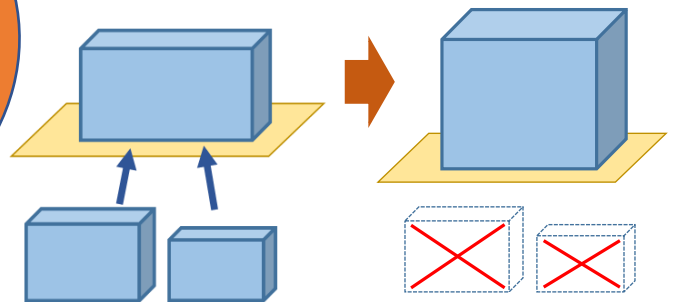
◆複合化（多機能化）

異なる機能をもつ複数の施設を1つの施設にまとめる。



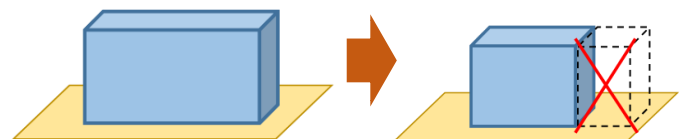
◆統合（集約化）

同じ機能を持つ複数の施設を1つの施設にまとめる。



◆減築（規模縮小）

建物を建替える際に、床面積を減らす。

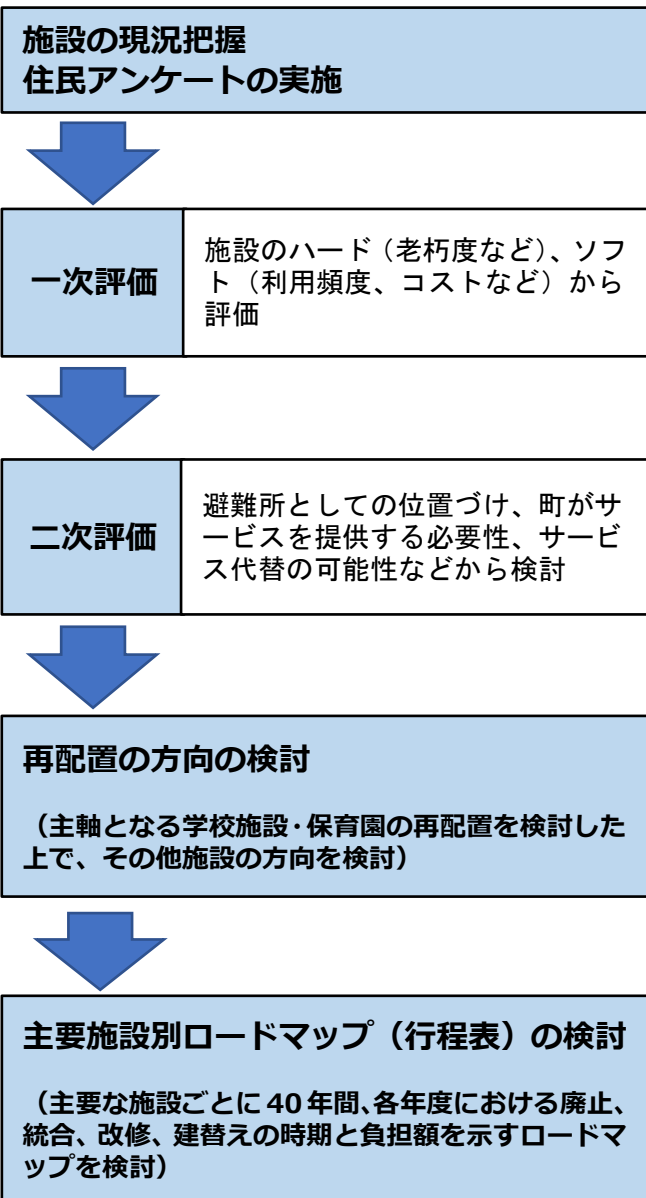


3. 再配置計画の基本的考え方

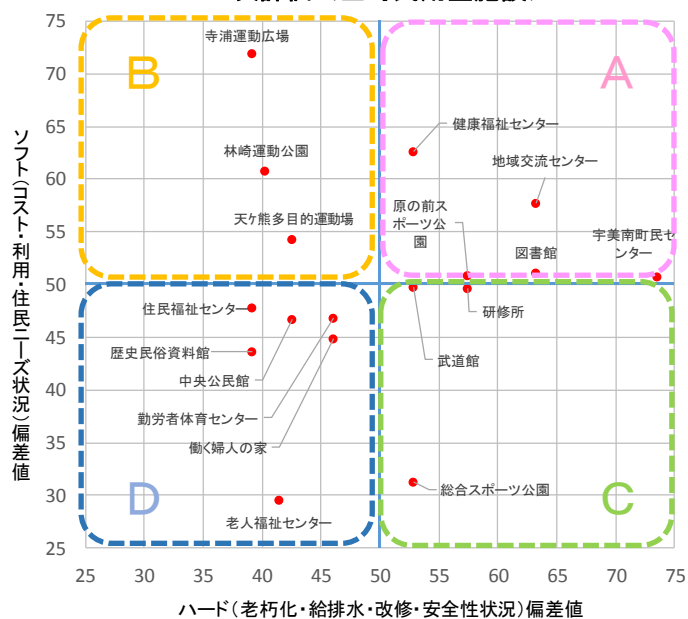
本計画は、第6次宇美町総合計画や宇美町公共施設等総合管理計画を踏まえ、単に、財政負担の軽減といったコスト縮減を目指すだけでなく、地域の新たなにぎわいの創出、地域コミュニティの活性化、多様な交流機会の創出など、新たなまちづくりの実現に資することを基本的な考え方とします。



検討の流れ



一次評価＜全町民用地型施設＞



一次評価の区分

A	ハード、ソフト面ともに評価が高い。施設の維持保全を適切に実施することにより継続使用する。
B	ソフト面の評価は高いが、ハード面が低い。改修や建替時に複合化を検討するなど機能は維持し、ハード面を改善する。
C	ハード面の評価は高いが、ソフト面が低い。B評価の施設への転用や利用率向上のための複合化、統合など、機能の廃止を含めたソフト面の見直しをする。
D	ハード、ソフト面ともに評価が低い。民営化や統廃合など、施設の廃止を前提とする。